

2014年7月12日
世田谷区船橋地域バージの会主催講演会
於：フレール西経堂第1集会所
地域の生活文化をつくる
駒井さんの活動を手がかりに

昭和女子大学名誉教授

フリー刺繍画家

天野寛子

自己紹介

- 2009年3月昭和女子大学退職
- 現在：昭和女子大学名誉教授、フリー刺繍画家
- フリー刺繍画家としての活動
- 展示したようなアップリケと刺繍を重ねた作品作り ⇒ 個展（東京で数回、三重県で数回、沖縄、ウラジオストック（ロシア）、陸前高田、盛岡等）
- 2011年東日本大震災に関する作品でメッセージ性があるということに珍しがられています。
- 画集 『繋ぐ 天野寛子フリー刺繍画集①集と②集』
- ししゅう高田松原プロジェクト（陸前高田の「たがだ八起プロジェクト」「みんなのたからものづくり実行委員会（被災者支援NPOが横につながって地域のたからものづくりを支援し実現している委員会）の推進
- 24×24の布に布や糸で20×20の松の絵を描いて作品とし、それを繋いでタピストリーにしあげ、展示する。第1次締め切り2014年12月31日、第2次締め切り2015年12月31日

ししゅう高田松原プロジェクト作品2014. 7. 6現在



1. 『モデルなき家庭の時代』で提起したかった生活文化



問題提起したかったこと

p.206：生活文化をつくる

- 生活文化とは何かp.206
- 「知識、信仰、芸術、道徳、法律、慣習、その他、人が社会の成員として獲得したあらゆる能力の総体」
- 生活文化というと、「竹の文化」とか「紙—和紙の文化」、日本料理、和服生活、生活の道具や技術など、「モノ」あるいはモノに関わることをイメージされやすいのですが、「日本人の行動のしかた」、「ものの考え方」、「しぐさ」生活習慣なども入っています。
- 生活文化をつくる=3つの意味をこめて⇒

①戦後の日本人が経済活動に目を奪われ生活を大事にしてこなかったことに対して「生活に目を向け、生活自体を人間的・文化的にする期待を込めて。

- 先回りしないではいけない、
- 豊かな生活が子どもの自立能力を育てない。友達がいない。お金を払って便利を買う⇒イージーに流れる。子どもの素朴な手作りより、こざい商品を買って与えることを「愛情」と錯覚する
- 過剰な学歴期待。豊かな時代の親子密着。孤独な父親・ただただ成績（点数）が上がることだけが大事にされて、人間の心、成長の過程が大事にされない・・・・・・・・・・
などなど。オウム事件のとき。・・・・そしてすぐ忘れる

②家庭生活をよく機能させていくためには地域の生活の内容充実が検討されるべきでありそこでの人々の人間関係を含む行動様式や施設・設備・集団・グループの関係を機能するようにつくっていくこと、すなわち地域における生活文化をつくることだという期待をこめて。

- 生活の自立訓練が家庭でできなくなっている
- 夫婦関係が壊れ、親子関係がこわれて、家庭に居場所の無い子どもがいる。その子に「はやく家に帰れ」といってもその子どもには行き場がない。「親の責任だ」と言ったところで、親もその子どもを教育的に見守る能力はない。⇒受け皿は近所・地域・地域施設の職員、ボランティアそういう人しかいない。

★昔、近所の子どもも家の子どもと同じように叱り食べさせ、慈しんだ関係があった。

③子どもや障害者や女性や高齢者が尊重され、差別されず自立的に生活できるような生活の様式（生活文化）を実現すべきでありそれを実現していく過程を「生活文化をつくる」と表現できるという意味で。

- 「障害者は外に出さない」そういう習慣があった。今、変わってきている。しかし「障害者も健常者も同じように尊重される社会になったか」といえば、残念ながらまだなかなか・・・。
- 夫婦は平等で、「子育てはパパも関わって」と言われて久しいけれど、育休をとるパパはごく少ない。
- ★ 「平等」の価値観を日々の生活行動に移し、その行動を習慣化し、次の世代が「それって当たり前だったよね」言えるように、つまり生活文化になるようにしたい。

新しい生活文化をつくる＝新しい価値観
—平等・共生・ノーマライゼーション・開かれた関係—
自分の人生を自分らしくいけることができるように

- ①無報酬労働からの脱却
- ②家庭の共同責任と女性の貢献の評価
- ③ノーマライゼーションという文化（今、ユニバーサルな文化？）
- ④共生を—生き辛さを抱えている中学生・高校生と地域の開かれた関係に
- ⑤地域で生活者であるということ—生活者としてのロマン
- ⑥生活文化をつくることは、生活主体が生活を権利として認識すること

生活文化をつくることは、生活を権利として認識し、大人がやることp.222

- 中学生・高校生が今ぶつかっている問題は、決して彼らだけに特有の問題ではありません。大人のもつ生活の問題を見えやすい形で表現してくれているものだと思います。中学生・高校生がぶつかっている問題を解決し、それを生活文化として定着させることは、みんなの生活の質を保障するものになっていくでしょう。
- 簡単なことではありませんが官製の政策を受け身で待つのも、「やってくれない」とグチるのもなく、また、反対や妨害にもめげず、地域住民や民間の志ある人がパイロットとなってまず可能かどうかやってみて、「これなら可能だ」というところで全体の政策に移していく、そういう形で民主主義を根づかせるときののだと思います。
- そして大事なことは、大人たちが、そういう形で自分たちの想いを実現していったその方法と過程を、若者たちに見せていくことだと考えています。

駒井澄子さんとの出会い

- 1996年頃 世田谷区社会教育委員を引き受けた。駒井さんも同期。
- 「家庭教育論」を学生たちに講義していた
- 『モデルなき家庭の時代』の原稿の途中だった
- 世田谷区社会教育委員 研修でバス旅行
- 駒井さんがどんな経歴の方なのか聞き取りを始め、メモをとりはじめた
⇒本の原稿になっていった

駒井さんの活動

(8章地域を紡ぐおばさん) 資料参照

- ①生活の拠点と人々とのつながりを守りたいー西経堂団地自治会長
- ②いたわり 建替えに際して一人も泣く人を出さないように
- ③新しいつながりづくりー自治会建て替え問題委員会、防災・防犯活動、ゴミ当番、自治会ニュース、老人給食、清掃活動、防災訓練ー、
- ④みんなで中学生の生活の場を守ろうー地域に開かれた状態でp.163茶髪、「すぐ110番しない」
- ⑤ゴミ当番
- ⑥コミュニケーション（老人給食も清掃活動も）
- ⑦PTAのお母さんたちとのつながりー地域活動へ
- ⑧組織をつなぎ機能させる青少年地区委員（町会、民生委員協議会、日赤奉仕団、青少年委員、保護司、小・中学校長、PTA）
- ⑨男の料理教室
- ⑩子どもぶんか村

私が見た駒井澄子さんという人

- 本気p.176「本気でぶつかったほうが物事は動く」という信念
- 反対意見とか躊躇して判断を先送りしている人に理由をきき、その人の恐れや心配を「あ、じゃ私がこの人に頼んでおいてあげるから心配しなくていいよ」と心配事を引き取ってあげる
- 人の要求を読む「話を聞いてもらいたいと思っている」「いけないことをいけないと言ってくれる関係を求めている」サインをみのがさない
- 人間らしい心を押し殺さない
- みんななにかやりたがっていることを誘い出す
- 勉強している
- 自分の子と地域の子の成長を同じように喜べる
- 上手く行かなかった場合の責任を自分がとる
- 後輩を育てる

9章 中学生・高校生の居場所ー 船橋児童館

- ヒゲさん＝澤畑勉さんと児童館に来るこどもたち
- p.186「ボクたちはこの溜まり場である児童館に来る子たちを<問題児>とは見ていないんですよ」
- そんなの「悪い」というほどのことないよ。2～3年待ってやれば普通になるよ」という懐の大きさ
- 船橋児童館「秋まつり」
- <船橋タマリバの会>忘年会
- 矢島利雄さんとタマリバに来たこどもたち

そのころ船橋児童館

- 奇麗に、規則通り管理統制する区の「規則」との葛藤、トラブル
 - 時間
 - 職員の負担
 - 汚れる
 - たばこ
- ★20年経った。船橋児童館でごはんを食べていた子どもたちは今、どうなっているのだろうか？

3. 地域活動と女性

- ①人生86年を生きる世代として直面する
地域問題
- ②ライフスタイル
- ③ライフステージ
- ④地域住民としての権利と義務
- ⑤家族内での調整
- ⑥個人の資質
- ⑦地域活動するという生き方
- ⑧選択・決断

①人生86年を生きる世代として 直面する地域問題

- 人生86年を生き抜かねばならない時代
- 前の世代（親の世代）の人の真似では個人の人生としても、経済的準備も、人間としての活動も間に合わない
- 自治体の制度のみでなく、社会的な習慣、ひとびとの生活習慣を変えていかねばならない。
- 試行錯誤をしながら、話し合いをしながら、おしゃべりをしながらコンセンサスをつくって行かねばならない

② ライフスタイル多様化のなかでの 地域活動

- 結婚する人もいる、結婚しないで生きる人もいる
- 子どもを産み育てる人もいる、産まない人もいる
- 共働きの人もいる。性別役割分業の人もいる
- 様々な職業の人がいる
- 様々な職業に伴った制約や利害関係、生活行動が生じる
- 様々な性格の人がいる

- 自己主張——自分勝手な人もいる
- 昔より激しくなっているかもしれない
- ★ **そういうさまざまなライフスタイルの人々と話し合いながら「地域」をつくっていかねばならない＝少しの話し合いで合意できると思わない**

③地域が課題として現実化する ライフステージ

- 学校卒業⇒仕事⇒退職結婚⇒子育て PTA活動 ⇒
 - これからの人生を見通せるような何かしたい。何かに参加したい。
- ①仕事復帰
 - ②子育て中に見つけた何か
 - ③趣味・遊び・健康づくり・演劇・ボランティア活動・
 - ④教養みがき、語学、市民講座、読書会
 - ⑤地域活動（自分の生きる環境をよりよいものにしておきたい）

★バージの会の人たち

子育て PTA活動で学んだ地域とのつながりをベースに、
自分たちの行く末を見つめた地域活動に展開していきたい
ーーー今回の講演会の企画

④地域住民としての権利と義務

- 生活してきた場所、生活している場所、生活していく場所を
- 居心地よくしたい。もっと居心地よくしたい。
- そうする権利がある。しかし、**実現したかったら行動しなければ**ならない。大きなことを一度にやろうとしてもできない。
- そういう哲学をもつ人も持たない人もいる。そういう哲学を持つ人がひるんでしまってはならない。
- J・F・ケネディの言葉をもじっていえば
- 「地域社会があなたに何をしてくれるかではなく、あなたが地域社会のために何ができるか」
- ★ 「パイロットを担う人は何時だって少数派」ということをはじめから覚悟しておこう。損得感情とは別の次元の判断。**人間としてそれを担いたいかどうか。そういう（品格のある）人生を送りたいかどうか。**
- 「失敗は罪ではない。低い志こそ罪である」（L. M. モンゴメリ『アンの青春』松本侑子訳集英社文庫）

⑤地域活動と家族

- 地域活動をする—時間がとられる
- 家族、特に夫との関係
- あなたが活動しやすいように、夫や子どもの生活技術（掃除、洗濯、食事の準備・片付けの技術）・知識を少しずつ高めておく
 - • • • • 「下手でもけなさないこと」
- 地域の諸問題が夫婦共通の話題になるような家族関係に育てておく
- 自分がどういう部分を担っているかを知らせておく（わかってもらっておく）

⑥個人の資質と地域活動

- 地域活動にはいろいろな側面がある
- 個人には向き不向きがある

ただ、「自分にはそういう能力はないとか、向いてない」と思っている、＜意外な一面の発見＞ということもある。

人間の脳は非常に多様な可能性を秘めている。
やってみることによって開く能力。 困難ななか
で研ぎすまされ、開いていく能力もある

⑦地域活動するという生き方

もし、そうしなかったら内なる自己(内面の声)が私を許さない

- 手間ひまかかる「生き方を選んでいるのだ」という自覚をしっかりと持とう
- ここまでは関わるがこれ以上は自分は無理だという区切り。期待されるままにしておく手には負えなくなる場合も。ただこれは成長のチャンスかもしれないからよく考えて。
- スーパーバイザーをもつ（冷静に考えることができるように）
- ハンナ・アーレントの言葉「わたしは一人なのですが、たんに一人なのではなく、私には自己というものがあり、この自己は私の自己としてわたしにかかわりがあるということです。（略）もしもわたしたちが自己と調和できなければ、自分のうちにいわば敵をかかえこんでしまいます。そしてこの敵とともに暮らし、日々つきあわなければならなくなります。（略）わたしが人間であることを示すのは、まさにこのわたし自身との沈黙の会話であるということになります。

⑧選択・決断

- 地域活動と趣味とは異なる。
- さまざまな意見がある。好き、嫌いもある
- ただ注目してほしいだけの「反対」もある
- 地域活動にはそれなりの責任が伴う
- 活動によって生じるトラブル、厄介、うわさ、足引っぱりや悪意、やっかみ、嫉妬、羨望などがつきまとう。それらを達観する度量を養う（鍛える？）
- 役所との関係：これまでに作られた制度、規則、前例、首長の考え方、担当者の考え方、
- 大多数の人はほとんどの場合お役所の判断を受け入れる。だからといってそれが正義ということでも、あるべき姿ということでもない。＝少数意見を表明し続けねばならない。
- 何時の日か、「あなたがたの意見が正しかったわ」となる日のために

4. 地域活動することのメリット

- ①社会・歴史のなかに積極的主体的に参加できる（大江健三郎「歴史のその瞬間に立ち会っている」）
- ②自分の人生や将来を地域との繋がりで考えることができる（⇔孤立）
- ③家族でないのに家族的な付き合いのなかに暮らせる
- ④仲間とともに成長できる。「〇〇ちゃんママ」でなく、一人の人格としてつきあうことができる＝濃い付き合いができる。
- ⑤世代を超えた友人ができる、育っていく地域のこどもたちとともにいることができる
- ⑥地域に人脈ができ、高齢期の生活の質が飛躍的に向上する（行政の網の目のなかにいることができる）
- ⑦自分が努力してきたことを確認しながら生きることができる（環境を美しくした、木を植えた、花が咲いた・・・）
- ⑧何より、「私はやるべきことをやって生きてきた」という自己肯定感をもつことができるだろう。

アドバイス

「駒井さんと比較しないこと」

- 駒井さんと同じようにやってもうまくいかない
- 現在は現在の課題がある。
- あなたの課題に向かって生きること

- 「人はどこで生きようと、結局は自分だけの人生を生きるのです。（略）人生は広くもなれば狭くもなる。それは人生から何を得るかではなく人生に何を注ぎ込むかにかかっている」
- L. M. モンゴメリ『アンの青春』松本侑子訳集英社文庫

茨木のり子〈寄りかからず〉

もはや
できあいの思想には寄りかかりたくない
もはや
できあいの宗教には寄りかかりたくない
もはや
できあいの学問には寄りかかりたくない
もはや
いかなる権威にも寄りかかりたくはない
ながく生きて
心底学んだのはそれぐらい
自分の耳目
じぶんの二本足のみで立っていて
何不都合のことやある
寄りかかるとすれば
それは
椅子の背もたれだけ

＊

充実した人生を生きてください。

ありがとうございました。